

## 北区地域公共交通に関する意見交換会（会議概要）

### 1 開催

平成30年12月26日（水）午前10時～午前10時55分

### 2 会場

北区役所 大会議室

### 3 出席者（敬称略）

#### 委員

所属	氏名	備考
新潟市消費者協会 豊栄支部長	山岸 洋子	
はまなす「地域交通」研究会 座長	村山 和夫	
はまなす「地域交通」研究会 事務局長	阿部 元良	
島見町・太郎代地区バス運営委員会 会長	小熊 明彦	
島見町・太郎代地区バス運営委員会 副会長	阿部 康夫	
東港タクシー株式会社 代表取締役	山口 道夫	代理
アイ・ケーアライアンス株式会社 代表取締役	関塚 政行	
新潟交通株式会社 乗合バス部担当	難波 翼	代理
新潟交通観光バス株式会社 営業部長	大橋 信宏	
新潟市ハイヤータクシー協会 専務理事	佐々木 紀彦	
新潟運輸支局 運輸企画専門官	松永 展明	
新潟北警察署 交通課交通管理係長	山田 修	代理
北区建設課長	濱崎 憲夫	
北出張所長	田辺 信一	
北区地域総務課長	佐々木 勇	

#### 事務局

所属	氏名
北区地域総務課 課長補佐	清水 智
北区地域総務課 主幹	高野 裕子
北区地域総務課 主事	高田 美桜
北区地域総務課 主事	佐藤 真太郎

傍聴者 0名

#### 4 意見交換事項

- (1) 陽光・松浜・濁川地区バス運行計画（変更）（案）について
- (2) デマンド交通運行計画（変更）（案）について
- (3) 区バス社会実験について（報告）

配付資料により、事務局が説明を行った。

##### ○山岸洋子 委員

デマンド交通の運行区域に含まれる「一部葛塚地区」とは具体的にどこを指すのか。

##### ○事務局

新鼻甲二、新鼻乙、内沼沖の三自治会を指す。いずれも葛塚地区だが、岡方・長浦地区と同様に公共交通が不便な地域であることから、デマンド交通を運行している。

##### ○山岸洋子 委員

岡方・長浦地区での唯一の公共交通として、今後も継続して行ってほしい。

##### ○佐々木紀彦 委員

自宅側運行区域における停留所化にあたり、タクシー事業者には事前に説明を行ったのか。また、利用者にとって最も大きい変更点は何か。

##### ○事務局

デマンド交通の運行事業者である太陽交通(株)および都タクシー(株)に対して、事前説明を行った。また、両社から了承を得ている。

本件運行改正では、自宅側運行区域における停留所化と、運営主体の変更を行う。利用者にとって最大の変更点は、この停留所化だと認識している。

##### ○松永展明 委員

当該住民バスと区バスの収支率および利用者の傾向を教えてください。

##### ○事務局

住民バスの収支率は近年、低下傾向にあるのが実情。また利用者の大半は高齢者である。平成30年度から、65歳以上の正規運賃を100円から200円に値上げしたが、同時に「シニア半わり」制度を導入した。この割引制度により、収受運賃は変わらない一方で、市からさらに割引分が補填されるため、実質的な収入が倍増した。これにより住民バスにおいては、収支率の回復が一部見られつつある。

区バスの収支率は住民バス同様、芳しくない。利用者は高齢者が多いが、冬季臨時便を運行するため、同運行期間中は中学生の利用がある。

##### ○山岸洋子 委員

葛塚便を増便する一方で、現行第12便を廃止するとある。どのような背景があるのか。

##### ○村山和夫 委員

現行第12便は利用者数が非常に低迷しており、廃止はやむを得ないと判断した。この時間帯に始発地

の新崎駅北口の様子を見たところ、自家用車が多く送迎しており、バス需要は少ないと見込んだ。また、葛塚便を増便するにあたり、運行経費を増加させないための調整策でもある。

#### ○事務局

葛塚ルートは利用者数が比較的多い。一便のみの復路便が往路便に比して利用者数が少ない。復路便の増便により利便性向上を図り、潜在的な需要に応えたい。

#### ○田辺信一 委員

高齢化の進行により、利用ニーズが多岐に及んでいることが推察できる。収支率の維持、向上も思慮に入れながら、停留所や便の追加等、地域の小さな要望にもしっかりと対応する姿勢を評価したい。

#### ○村山和夫 委員

新崎駅北口で、新潟リハビリテーション病院（H30.8～）および豊栄病院（H31.1～）の送迎バスと接続する。ダイヤ調整を病院側にお願いし、スムーズな乗換えができるようにするもの。当該住民バス利用者の多くは高齢者で、かつ病院受診者であることから、この連携により利便性向上が大いに期待できる。今後も両病院等と情報交換を行い、連携策を模索したい。

#### ○事務局

住民バスと病院送迎バスは、運行の目的が異なるが、連携することにより利便性の向上を図るもの。これにより、病院受診者は新崎駅北口からバス乗換えが可能になるため、住民バス利用者数の増加も考えられる。

以上